H30（　13上組　）放課後子ども教室の活動報告

|  |  |
| --- | --- |
| 平成３０年度の○成果と●課題 | 平成３１年度へ向けた方策 |
| **１　子どもたちの育ちの状況**  ●キッズ体操では２７人中１年生が１５人おり、自分勝手な動きが多く、なかなかコーチの言うことを聞かない状況がある。主体性と異学年効果を期待し、高学年から順番に挨拶当番を決めて行っている。  ○生け花・絵手紙の教室：前半は講師やサポーターの話を聞かず困ったが（私の勝手でしょうという態度）、後半では講師に対して身体を気遣う言葉がけが３・４年生にあった。  ○自分勝手で対応に困る児童が数名いるが、教頭先生に相談すると  　支援が必要な児童だと説明された。個別に向かい合い、話しかけを多くしている。その中の男子３名は「絵本の部屋」では創作絵本を作り上げている。 | →継続　　指導方法の工夫  　教えを乞う挨拶と感謝の気持は、成長する上で基本。  →花の命を愛でる、想いを込めて添える絵手紙の言葉は感性の磨きにつながる。  →放課後子ども教室の中で５名の児童が、何等かの支援が必要。話しかけながら一人一人に向き合う。 |
| **２　活動の内容・仕方・講師の声**  ●講師・サポーターの声：大人の言うこと・説明をよく聞かない。  ○講師により教室の運営がうまくいかない時期に、子ども塾責任者  として講師と児童の中に立って教室の雰囲気づくり・僭越ではあるが講師へ助言もさらりと行った。１年生の途中入会も今は心配なく、絵手紙も生け花も児童達は楽しんでいる状況にある。  ○１月に保護者へのアンケートを実施した。毎月行っている教室で  　は男子児童のための教室が少ないという指摘があった。将棋、工作、和太鼓教室など構想の中にはあるが、実施に至っていない。  　放課後の子どもたちの時間の使い方への考慮もある。 | →話かけの仕方を工夫する。  →家庭やこの教室の一番の課題は「善・悪」の判断ができること。他の人が困ることはしない。  →次年度の課題  　地域の協力者への呼びかけ、情報を取るアンテナが必要。 |
| **３　関係機関との連携**  （１）地　域  ○少ないサポーターの中で、連携しながら児童の見守りや講師の手助けをしている。  （２）児童館・児童クラブ  ○放課後子ども教室は単独型の運営をしているが、年１回は二つの児童館を会場にして「ピアノコンサート」「ママさん演奏会」を行っている。  （３）学　校  ○キッズ体操の前半では、同じ児童間でちょっかいから喧嘩に発展するケースが多々あった。教頭先生が窓口で、報告と相談は気持ちよくできている。  （４）その他の機関  ○高校。大学生との交流を、年１回は実現したいと考えている。  ３月２６日は造形大学太鼓部と演奏・太鼓打ち体験、餅つき交流会の計画を進めている。  ○春・夏・冬休みのグランママの料理教室では、地域の高齢者との交流で人気がある。同じテーブルで、話に花を咲かせながら会食を楽しみ、食器洗いまで３時間を協働している。秋休みは「食生活改善推進員」の皆さんの出番をお願いしている。 | →活動サポーターの募集をしても手を上げる人のいない現実。  →継続  　交流を深める機会を増やす必要を感じる。 |
| **４　その他（参加募集や広報の仕方など工夫したこと）**  ○毎月の保護者への案内にメッセージを掲載している。途中からで  　も教室への参加ができることの周知と子ども塾への期待喚起の目的を持つ。  ○児童が同学年の友達に進めてくれている。１月に入ってキッズ体操２名、２月に入って生け花２名の新加入があった。 | →次年度の課題  　「熱中感動上組子ども塾」の活動紹介  →児童が仲間を営業する効果。 |

＊来年度に向けた方策がありましたら、書ける範囲で記述をお願いします。